

鷺の翼に乗せて

出エジプト記 19 : 2 - 8



司祭 ヨハネ 井田 泉

2023 年 6 月 18 日

聖霊降臨後第 3 主日

聖光教会にて

「あなたたちは見た。わたしがエジプト人にしたこと、また、あなたたちを鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れて来たことを。」 出エジプト記 19:4

今日心にとめたいのは、主がモーセに言われたこの言葉です。

遠い昔、エジプトで奴隷の生活を強いられていたイスラエルの人々は、モーセに率いられて奇跡的にエジプトを脱出しました。エジプトを出て3カ月目、人々はシナイ山の麓の荒れ野に到着しました。ここに至るまでにたくさんの危機がありました。

エジプトの軍隊に追われ、前は海。絶体絶命というとき、海の水が左右に分かれて、人々は海の真ん中を渡ることができました。苦い水しかなくて渇きで死ぬ思いをしたとき、モーセが1本の木を投げ込むと、水は甘くなりました。食べ物がなくなったとき、神は天からマナを降らせて命を保たせられました。アマレク人との戦いで全滅の危機に瀕したとき、必死の祈りが聞かれてアマレクを退散させることができました。

こうして今、人々はシナイ山の麓にたどりついたのです。

出エジプトの民は、今風に言えば難民です。神は難民を保護し支えられます。日本もそのような姿勢を持った国になるべきです。

さてモーセの目的は、ここにイスラエルの人々皆を連れて来ることでした。もう半年、あるいは1年も前になるでしょうか。80歳のモーセは羊の群れを連れてこのシナイ山に入り、この山で神と出会ったのです。モーセはここで燃えて燃え尽きない柴の奥から語りかけられる神の声を聞き、神に捕らえられました。モーセは羊飼いの杖を持っていましたが、その時、その杖を神が共におられるしるし、神の杖として新しくいただきました。この杖に頼って、神が共におられて共に働いてくださることに頼って今に至ったのです。

モーセがシナイ山で見た、あの燃えて燃え尽きない火は、神の燃えて燃え尽きない愛を示すものでした。あのとき、このシナイ山でモーセは決定的に神と結ばれたのですが、それを自分だけに留めておくべきではありません。イスラエルの人々皆がこのシナイ山で、神さまと決定的に結ばれるようにしなければならない。それが神の意志であり、またあの時以来のモーセの決意でした。そのシナイ山に今、皆と一緒に到着したのです。

モーセ個人が経験した神は、自分たち全員の神である。そのことをはっきりとここで一緒に経験したい、皆を神と出会わせたいのです。

今日の旧約聖書日課はこう始まっています。

「彼らはレフィディムを出発して、シナイの荒れ野に着き、荒れ野に天幕を張った。イスラエルは、そこで、山に向かって宿営した。モーセが神のもとに登って行くと、山から主は彼に語りかけて言われた。」 19:2-3

神さまご自身がモーセに語りかけられました。

「ヤコブの家にこのように語り、イスラエルの人々に告げなさい。」 19:3

モーセが全会衆に語るべき言葉、内容は次のことです。

「あなたたちは見た。わたしがエジプト人にしたこと、また、あなたたちを鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れて来たことを。」 19:4

「あなたたちは見た」と主は言われます。海の中に道が開かれたこと。この旅路で水と食べ物がかろうじて与えられたこと。襲ってきたアマレクが退散したこと。これらすべては偶然ではなく、単に運が良かったのではなく、主がそれを行ってくださった。神がイスラエルの民を救われたのです。それを彼ら自身が見た。

確かに、ここに至るまで苦労を重ねてきたのは自分たちです。苦しみ、弱り、うめきつつ、ここまで進んでやっとたどりついた。人々の努力、忍耐、苦労を神さまは知っておられます。しかし、神はこう言われるのです。

**「あなたたちは見た。わたしがあなたたちを鷺の翼に乗せて、
わたしのもとに連れて来たことを。」 19:4**

わたしがあなたがたをここまで連れて来たのだ。わたしのもとにあなたがたを連れてきたのだ。それをあなたがたが見たのだ、と。どのようにしてか、というと——主はこう言われます。

「あなたたちを鷺の翼に乗せて」

神さまは言わば親鷺です。イスラエルの民は鷺の子、初めは鷺の雛です。親鷺は雛を守り養い育てて、やがて飛ぶことを教えます。翼を広げて大きく羽ばたく。子鷺もそれをまねて小さな翼を羽ばたかせる。そうしているうちに子鷺は空中に舞い上がる。自力で飛ぶことをおぼえていきます。しかしなお危うい。途中で力が尽きて墜落してしまう。親鷺は急降下して、その子鷺を自分の翼に乗せて、目的地まで運びます。これが、イスラエルの民が経験したことなのです。

申命記の中にある「モーセの歌」にはこう記されています。

**「鷺が巢を揺り動かし、雛の上を飛びかけり、羽を広げて捕らえ、翼に乗せて運ぶように、ただ主のみ、その民を導き、
外国の神は彼と共にいなかった。」 申命記 32:11-12**

ただ主のみ、その民を導かれた。主はイスラエルの民を自分でしっかり歩いて行けるように訓練しつつ、必要な助けを与えてここまで導かれた。

「あなたたちは見た。わたしがあなたたちを鷲の翼に乗せて、
わたしのもとに連れて来たことを。」 19:4

出エジプトの民、神を信じてモーセに従ってきた民は、墜落・破滅の危険の中で神さまの翼に載せられ運ばれてここ、神のもとに至った。神に守られ導かれてきた。今、このことをはっきりと知ります。

わたしたちの人生を振り返ってみたい。危険を何度も経てきた。もうだめかもしれないと思ったこともあるかもしれません。けれども神さまがわたしたちを鷲の翼に載せてここに至らせてくださった。このことに思いを深めたいのです。

わたし自身のことを言えば、重いウツで数年間苦しんだことがあり、神さまを3度見失ったことがあり、過ちを犯し、また攻撃にさらされたこともあります。しかしそのようなわたしもまた、鷲の翼に乗せられて今ここまで導かれたのかと思うと、不思議な感慨と感謝が起こってきます。

皆さまはいかがでしょう。

今、わたしたちは出エジプトの民とともに神さまの前にいます。今大切なことは、わたしたちが、あらためて神さまとの深い信頼関係を結ぶということです。主はこう言われます。

「今、もしわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら

ば、あなたたちはすべての民の間であって、わたしの宝となる。」 19:5

「わたしの声に聞き従い、わたしの契約を守る」。洗礼のときの約束を思い起こしましょう。

「あなたは、主イエス・キリストにまったく寄り頼みますか」

「神の助けによって寄り頼みます」

「あなたは、キリストを主と信じて従い、生涯その模範にならうことを約束しますか」

「神の助けによって努めます」

そのとき、わたしは神さまの宝です。神さまの目にわたしたちは大切な宝、貴い宝です。

祈りましょう。

神さま、あなたはわたしたちを、今日まで守り導いてくださいました。危ういときも、あなたはわたしたちをご自身の翼に乗せて、運んでくださいました。そのことを思い、感謝いたします。どうかわたしたちを、あなたを真実に信じ従って行く、あなたの民であらせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン